

◇ おわりに ◇

◇この冊子は、'96年6月21日支援の会より7号での原稿募集、同じく9月27日編集委員の座談会、'97年9月4日最終校正、'98年春発刊の目途を迎える。当初は座談会をさいごのまとめにして発刊予定だったものが、まる1年以上遅れてしまったことをお詫びする。言い訳になるが矢崎和彦を中心に編集委員はサボったわけではなく、およそ毎月の編集会議は私たち支援の会自身の反省となり、それに伴って編集内容の再検討と充実をめざすことになってしまったのだ。それに付き合った印刷の岡崎高さんには迷惑をかけたが。

◇自画自賛になるが、改めて私たち支援の会が他の多くのボランティア団体と異なり、地震をめぐって17の賛同団体が急拠寄り集まったものであったこと。さらに言う

なら日常の多様な支援活動は一人ひとりの個人の思いで取り組んできたこと。今回の小冊子についても同じこと。ボランティアとはそういうものかもしれないが、重ねて一人ひとりのみなさんに感謝しお礼を申し上げたい。

◇私たちは予定より約1年長くかけて、この冊子に震災ボランティア活動の実状と、支援の会自身の内状を描き得たと自負し、多くの方々に読みいただけることを望む。その一方で、この1年間に被災地神戸の状況は動き、たぶん'98年は仮

設住宅の閉鎖が進められるだろう。そのとき本来私たちが望んだ、障害者が地域で生きていける街が実現しているだろうか。そんな新しい神戸の復興ができるか注目している。と同時に、神戸でボランティア活動に参加した私たちは地元京都にかえって、障害者が地域で生きるためのネットワークづくりに取り組んでいるか。支援の会にご協力いただいたみなさまに重ねてお礼と、今後もお教をいただきたいとねがう。 (銅銀正美)

発行 1998年1月17日

編集 被災「障害」児・者支援の会

京都市伏見区銀座1丁目360 めぐみホーム

TEL&FAX 075-612-0364

印刷 身体障害者通所授産施設 乙訓の里

長岡京市勝毫寺長黒1-3 TEL 075-952-0888